

国立天文台太陽観測所・京都大学大学院理学研究科附属天文台
合同ユーザーズミーティング
「太陽地上光学観測の新展開2005」

開催のお知らせ

(サーキュラー NO.2 2005/01/19)

日時： 2月1日(火)午後1時より
2月2日(水)午後5時まで
場所： 明星大学日野キャンパス 19号館B02
<http://www.hino.meisei-u.ac.jp/jimsystem/hino/>

主催：国立天文台、京都大学大学院理学研究科附属天文台
共催：名古屋大学太陽地球環境研究所、明星大学

趣旨

国立天文台太陽観測所および京都大学大学院理学研究科附属天文台は共に太陽光学観測機器の共同利用を行っております。本研究会は、ユーザーズミーティングとしてこれら機器や観測データのユーザーの皆さんに研究成果を発表して頂くと共に、観測所の運用について大いに議論しまたホスト側に対して注文をつけて頂き将来のより大きな研究成果へとつなげることを目的として、企画しました。

また、これら観測所の主力機器が完成以後既に長い年月を経ていること、一方ではスペースでの光学太陽観測が現実のものになりつつあり、地上でも海外では新しい世代の装置が活躍をはじめたり建設中であつたりすること、に鑑み、広く太陽の光学観測に関心をお持ちの方に参加頂いて太陽地上光学観測の将来を考える場ともしたいと考えております。

参加される皆様へ

【旅費補助について】

旅費を申し込まれた方には、支給の手続きについて別途ご連絡します。もし今週中に連絡がなかった場合、世話人にご確認ください。

【集録について】

冊子は作らず、web上でプレゼンテーションファイルを制限つき公開するようになりたいと思います。

【懇親会】

2月1日の会合終了後、懇親会を予定しております。ふるってご参加ください。

【問い合わせ先】

世話人への連絡は um2005feb@solar.mtk.nao.ac.jp へお送りください。

特に必要があれば

国立天文台 花岡庸一郎 hanaoka@solar.mtk.nao.ac.jp

京都大学 上野悟 ueno@kwasan.kyoto-u.ac.jp

宛てにお願いします。

【世話人】

萩野正興、花岡庸一郎、一本潔、桜井隆、篠田一也（国立天文台）、
平山淳（明星大学）
黒河宏企、北井礼三郎、上野悟、森本太郎（京都大学大学院・理・附属天文台）
増田智（名古屋大学太陽地球環境研究所）

【研究会webページ】

下記のプログラム等の情報は
<http://solarwww.mtk.nao.ac.jp/um2005feb/>
にも掲載しています。

研究会プログラム

2月1日 13時00分～17時00分

はじめに
事務連絡

1. 各施設の運用状況報告

13:10-13:25 国立天文台太陽観測所の近況報告 桜井隆（国立天文台）
13:25-13:40 フレア望遠鏡の問題点 山本哲也（東京大学/国立天文台）
13:40-13:55 飛騨DSTの共同利用機器の概要等 北井礼三郎（京大理附属天文台）
13:55-14:10 飛騨SMARTの現状とH 単色像観測例の紹介 黒河宏企、SMART開発チーム（京大理附属天文台）
14:10-14:25 飛騨SMART・H 全体像による活動領域進化の解析 石井貴子他SMARTチーム（京大理附属天文台）
14:25-14:45 飛騨SMARTマグネトグラフ近況報告 上野悟、SMART開発チーム（京大理附属天文台）
14:45-15:00 飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡による機械偏光とその補正 清原淳子（京大理附属天文台）

休憩

15:20-15:35 川口市立科学館 6 連式太陽望遠鏡のフィルター検定および運用について 鈴木大輔（川口市立科学館）
15:35-15:45 西はりま天文台の太陽観測装置 時政典孝（西はりま天文台）

2. ユーザーによる観測解析結果の紹介

15:45-16:00 金星の太陽面通過のインターネット中継とその教材化 荻原文恵（和歌山大学）・他
16:00-16:15 飛騨天文台におけるヘリウムスペクトル線の多波長同時観測および乗鞍コロナ観測所における活動領域の偏光観測（仮題） 當村一朗（大阪府立高専）
16:15-16:30 太陽静穏領域における彩層grainの観測 神尾精（京大理附属天文台）
16:30-16:45 相関追跡法によるEFRの観測 高津裕通（京大理附属天文台）
16:45-17:00 乗鞍コロナグラフスペクトロメータによる小フレア周囲のプラズマ流観測 原弘久（国立天文台）

18:00～ 懇親会

2月2日 9時30分～17時00分

- 09:30-09:45 Ca II K線とCDS領域遷移層・コロナ輝線のスペクトロヘリオグラフを用いるX線輝点の縦方向観測 渡邊鉄哉 (NAOJ)・堀久仁子 (NiCT)・上野悟 (KH0/KU)
- 09:45-10:00 NOGISで観測されたCoronal Mass Ejection 鈴木勲(総研大/国立天文台)
- 10:00-10:15 NOGISがとらえたコロナループの振動 堀久仁子 (NiCT)、一本潔、桜井隆、NOGISチーム (NAOJ)
- 10:15-10:30 乗鞍ポラリメータによるHe I 10830Åストークスプロファイルの解析 一本潔 (国立天文台)
- 10:30-10:45 乗鞍液晶ポラリメータによるフレアカーネルの偏光観測 川上新吾 (文部科学省)
- 10:45-10:55 ぐんま天文台での太陽観測 中道晶香、倉林勉、清水実 (ぐんま天文台)

3. 将来計画へ向けての検討・提案

- 10:55-11:10 補償光学装置の開発状況 佐久間慎之介、小林敬志、三浦則明 (北見工大)、馬場直志 (北大工)
- 11:10-11:25 補償光学系を用いる超解像観測の提案 三浦則明、杉谷比佐子 (北見工大)
- 11:25-11:40 乗鞍液晶ポラリメータの検定について 川上新吾 (文部科学省)
- 11:40-11:55 乗鞍ポラリメータと25cmの来年度の改修計画 篠田一也 (国立天文台)
- 11:55-12:10 乗鞍ポラリメータの較正-今後のプラン 一本潔、篠田一也 (国立天文台)

昼休み

- 13:00-13:15 浮上磁場のダイナミクス：理論シミュレーション 磯部洋明 (京大理・天文台)
- 13:15-13:30 捻れた磁束管浮上とサージの数値計算および地上光学観測への提案の考察について 宮腰剛広 (京大)、磯部洋明 (京大)、横山央明 (東大)、柴田一成 (京大)
- 13:30-13:45 未定 (25cmポラリメータでやりたいこと彩層磁場観測とその先) 萩野正興 (国立天文台)
- 13:45-14:00 精度 10^{-4} を目指す偏光観測と乗鞍への応用 花岡庸一郎 (国立天文台)
- 14:15-14:30 H LyotフィルタとH Fabry-Perotフィルタの性能比較 森本太郎 (京大理附属天文台)
- 14:30-14:45 Solar-Bと地上観測 (仮題) 末松芳法 (国立天文台)

休憩

- 15:00-15:20 海外望遠鏡での観測について 清水敏文 (国立天文台)
- 15:20-15:35 海外で建設中・計画中の太陽望遠鏡 阪本康史 (東京大学/国立天文台)
- 15:35-15:50 国立天文台太陽観測所の将来計画 桜井隆 (国立天文台)
- 15:50-16:05 飛騨DSTの将来計画 北井礼三郎 (京大理附属天文台)
- 16:05-16:20 地上太陽観測の将来へ向けての装置開発 花岡庸一郎 (国立天文台)
- 16:20-16:35 CAWSES と国際共同太陽地上光学観測計画 柴田一成 (京大理附属天文台)

議論

17:00 閉会